

岩舟地域会議だより

2016年12月 第5号

新しい地域自治制度が始まっています

栃木市地域 自治交流会開催される

10月8日(土) 西方総合文化体育館において、地域自治交流会が開催されました。当日は栃木市内8地域の地域会議委員約80名が参加しました。

交流会は前半後半の二部構成。前半は地域予算事業計画書の提出が行われ、各地域会議会長から鈴木市長に計画書が手渡されました。岩舟地域における地域予算事業は「岩舟の郷土歴史伝承事業」、「岩舟のふるさとPR事業」の二つです。(詳細は2ページをご覧ください。)



交流会の後半は水畑順作氏による研修会でした。最初に

水畑氏による「『対話』から始まるまちづくり」と題した基調講演がありました。



○水畑順作氏のお話の概要

地域住民が自ら地域の課題に向き合い、考え、動くことが最も大事である。動くには「心の底からやりたいこと」でないダメ、なおかつみんな協力して取り組むべきである。一人一人が考えていても協力して取り組むことにながらない。みんなが何を考えているか知ることから始めよう、知るためには『対話』をしよう。『対話』とは非難

しない、否定しないの精神でとことんまで意見を交わすこと。心の底からやりたいことを探り、そして動くにつなげよう。とことん住民が話し合う『対話』を通し、小児科閉鎖の危機を食い止めた兵庫県丹波市にある柏原病院の奇跡と言われる事例もある。

基調講演の後『対話』の練習をしてみようというところで、参加者が内外の輪に分かれ、反対に回りながらほぼ全員と自己を紹介し合う「トークフオークダンス」をしながら、参加者間の垣根を取り払いました。



その後出身地域とは無関係に班分けされたテーブルで、「私の地域の自慢」、「今の栃木市をさらに魅力的にするためのプラスワンは？」について順次話し合いました。話し合いの結果を何人かが発表し、「地域の自慢」としてイチゴ、ブドウ、ナシ等の農産物、渡良瀬遊水地をはじめとする絶景スポット等が挙げられました。「プラスワン」としては人材育成のためのインターンシップ制度の創設、新栃木駅周辺への投資等熱い意見が飛び交い、あつという間の2時間でした。



岩舟地域予算提案事業
「岩舟の郷土歴史伝承事業」、
「岩舟のふるさとPR事業」に決まる

栃木市の新しい自治制度のひとつである「地域予算提案事業」は多様な地域課題を効率的に解決するため、地域会議が一定の枠内で予算の使い道を考えるものです。今年度については「ふるさと案内板設置事業」を進めているところですが、来年度は2つの事業を実施します。

事業① 岩舟の郷土歴史伝承事業

目的 岩舟地域の郷土愛の醸成を図り、また、文化財を市外にもPRし、来訪者を増やす。

概要 円仁や小野寺氏を軸にした地域の歴史年表を作成し、公共施設等に掲示する。また、円仁、小野寺氏、人車鉄道等岩舟地域の歴史や文化について学ぶ講座を開設し、報告書を資料としてまとめる。

【担当課 生涯学習部 文化課】

事業② 岩舟のふるさとPR事業

目的 岩舟地域の郷土愛の醸成を図り、また、自然やおいしいものを市外にもPRし、来訪者を増やす。

概要 岩舟地域が誇る岩船山をはじめとする自然、円仁や小野寺氏の

歴史、国や県指定の文化財、蕎麦・梨・ぶどう・いちご・トマト等の農産物についてPR動画を作成する。

【担当課 産業振興部 岩舟産業振興課】

第3回地域会議報告

日時 平成28年8月25日(木)

○議事1 情報提供

新斎場建設スケジュールの見直しについて

概要 平成25年3月「栃木市斎場再整備基本構想」で策定された目標スケジュールにおいては従来手法で、平成29年度末、PFI(民間主導の管理運営)手法で平成30年度末の供用開始となっていた。今後は、①環境影響評価、②PFI導入可能性調査、③都市計画決定等の法的手続き、④設計・工事等を経て平成33年度末(平成34年3月頃)供用開始を目標とすることにスケジュールを見直すもの。

第4回地域会議報告

日時 平成28年9月23日(金)

○議事1 意見聴取

「後世に残したい栃木市の文化資源48選」に掲載する地域の文化資源の選定について 【生涯学習部 文化課】

概要 「地域文化を活かしたまちづくり」を図るため、各地域の文化資源を調査・整理する。「後世に残したい栃木市の文化資源48選」として看板を設置したり、冊子にまとめたりする。

冊子は48選を紹介する他、48選を巡るモデルコース等を掲載し活用を進めていく。

48選は市内の8地域会議のエリアから6つずつ選定する。岩舟の6つの文化資源(以下6選)案について意見聴取するもの。

●主な質疑等については以下のとおり

Q 6選案の一つ赤羽根遺跡について、以前から設置されている現地の看板は老朽化が進んでいるので更新したほうがよい。また、ひと目で文化資源と分かるようなものが現場にないという意味で6選にはあまりふさわしくないのではないかと思う。6選とするなら看板等の表示に工夫が欲しい。

A 他の候補があれば意見としていただきたい。

Q 円仁のようなゆかりの場所がいくつかある場合の看板は複数枚設置されるのか？

A 代表的なところ一か所になると思う。そのようなときは照会させてもらうことがあるかもしれない。

Q 観光資源としての文化財になるよう進めていただきたい。

A 観光とはリンクしていきたい。本意見聴取に対し、回答期限まで引き続き協議することにした。

第5回地域会議報告

日時 平成28年10月27日(木)

○議事1

「後世に残したい栃木市の文化資源48選」に掲載する地域の文化資源の選定について

概要 岩舟の6つの文化資源案について、当時の様子が感じられたり、想像できたりするような展示物等がない「寂光沢窯跡」と「赤羽根遺跡」の代わりに、「岩舟石の産業遺跡」、「大慈寺」を選定する。協議の結果、次回現地を確認の上最終決定することにした。

第6回地域会議報告

日時 平成28年11月24日(木)

○議事1

「後世に残したい栃木市の文化資源48選」に掲載する地域の文化資源の選定について

概要 岩舟の6つの文化資源案について

て現地を確認の上決定する。

《地域会議の意見》協議の結果 ①村
檜神社、②大慈寺、③小野寺禅師太
郎通綱ゆかりの地、④慈覚大師円仁
ゆかりの地、⑤高勝寺、⑥岩舟石の
産業遺産の6つを回答することにし
ました。



まちづくり実働組織関連情報

（仮称）小野寺ふれあい会（小野寺北
小学校区まちづくり実働組織）
設立準備会開催される

11月1日（火）小野寺地区公民館
において開催された。次の二点につい
て協議した。

①地区防災計画の策定について

（仮称）小野寺ふれあい会以外の3
地区について、地区防災計画をつく
ることを目標にするということに進
めていることから（仮称）小野寺ふれあ
い会としても取り組むことにした。

②部会が実施する事業について

歴史文化スポットに立ち寄りなが
らのウォーキング大会実施を検討す
ることとした。小野寺に数多くある歴
史遺産になるべく触れてもらうよう
なウォーキング大会のコース案を文化
歴史部会で検討していくことにした。

まちづくり実働組織世話人会
開催される

10月に選出された代表者会議の方
向性を固める組織の核となる世話人
会が岩舟総合支所で開催された。10
月の代表者会議で決定した地区防災
計画づくりに向けて意見交換した。

●静和小学校区（世話人5名）

・日時 11月14日（月）
・内容 まず、静和小学校区を対象
に見本となるような計画をつくり、
区、自治会の順に規模に応じた計画
をつくっていくことにした。

●岩舟小学校区（世話人3名）

・日時 11月15日（火）
・内容 防災計画の内容について、災
害時にまず必要とされる一次避難、住
民の安否確認について取り組んでは
どうかということにした。そのための
一時避難所の設定、安否確認のための
世帯状況の把握方法について代表者

会議に諮っていくことにした。

●小野寺南小学校区（世話人5名）

・日時 11月18日（金）
・内容 防災計画の内容について、住
民の安否確認について取り組んでは
どうかということにした。安否確認の
ための世帯状況の把握方法について
代表者会議に諮っていくことにした。

地域の話題

東京都国分寺市高木町自治会を
視察

10月26日（水）岩舟地域自治会連
合会が主催する「地域防災の先進地
視察研修会」に26名の自治会長、自
治会役員が参加しました。高木町自
治会が活動拠点としている神社詰所
にお邪魔し、国分寺市の防災事業、
高木町自治会の災害に対する取り
組みについてお話を伺いました。

○国分寺市役所 井上氏のお話の概要

国分寺市では自治会などが主体
となり地区独自に防災まちづくりを
進めるため、市民防災まちづくり学
校と防災まちづくり推進地区事業
という二つの事業を進めています。
前者は地区の防災リーダー養成



のための研修会で、一年間防災を中
心に市内の様々なことについて研修
します。この研修会を修了した方に
は市が市民防災推進員という、防災
に関するリーダーであるという認定
をします。リーダーは認定を受ける
ことで地域での活動がしやすくなる
という狙いです。

後者は自主的な防災活動が機能す
るよう市と地区が協力する事業で
す。まず、希望する地区が市と協定
を結び推進地区となります。行政の
支援を受けながら地区用の防災計画
をつくり、その計画に基づき地区が
自発的に動けるような組織体制をつ
くることが大きな目標になります。
ここ高木町が国分寺市の推進地区の
第一号であります。

○高木町自治会 櫻井会長のお話の概要

高木町は昭和56年以来推進地区として活動を続ける歴史のある地区である。先輩方が築いてきた伝統を引き継ぎながら、より良い取り組みがあればできる範囲で取り入れ、試行錯誤している。

このまちの歴史からお話します。高木町は江戸時代新宿周辺からの開拓が西へ西へと進んだ流れの一点である。一時の厄災のたたりを鎮めるためにつくられた高木八幡宮という神社を中心とした地区である。おらが神様であるという意味で保守的な土地柄だった。

池田勇人内閣の高度経済成長時代にに入り、新たな住民が急増し、様々な問題も出てくる中、「新たな取り組みをしなければならぬのでは」という意見が少しずつ出てくるようになったことが推進地区に名乗りを上げることにつながった。

「自助」、「共助」の精神で、自分たちで出来ることは自分たちでやろうという意味で「住民とともにあるまち」というスローガンを掲げている。その具体策をいくつか紹介する。

ひとつは「住民同士があいさつをする」こと。そして顔見知りになる



ことでのちの安全カード(写真参照)を使つての安否確認事業につながっていく。また、あいさつをする地域というのは犯罪防止にもつながる。挨拶をし、声掛けをする習慣があることで犯行に及びにくい効果があるようだ。

二つ目は「へいづくり」である。昭和53年宮城県沖地震が発生した時に、塀の下敷きになった犠牲者がいた。これを踏まえ塀に関するアンケートを実施し、結果、みどりの多い、安全で、隣近所話しやすい塀にしようという「塀づくり憲章」を定め今に至る。風通しのいい近所関係の構築に努めている。



三つ目は「防災ファミリーひろば」という防災訓練イベントの実施である。

内容は初期消火訓練、通報訓練、豚汁を味わえる炊き出し訓練、世代間交流を目的とした昔の遊び等である。ただ訓練を実施するにも、親子混成チームで競いながら訓練を実施したり、昔の遊びのような娯楽

的要素を盛り込んだりして途切れることなく実施してきた。

最後に防災訓練の内容見直しである。従来避難訓練中心だったものを、地区住民が自主的に実施できる安否確認中心の内容にした。推進地区になることで地区の防災計画をつくるのがひとつの目標になるが、安否確認の実施が防災計画の柱になっている。実行につながる計画をつくっているとの自負がある。ぜひ防災計画をつくる際はどうか実行するかという魂を入れてほしい、と結んだ。



岩舟地域会議だより 第5号

平成28年12月20日発行

岩舟地域まちづくりセンター

(岩舟総合支所 岩舟地域づくり推進課内)

〒329-4392

栃木市岩舟町静5133番地1

電話0282-55-7751 fax0282-55-4910

E-mail : i-chiiki@city.tochigi.lg.jp